

拝啓 今年も早や7月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。今年は、6. 7月と雨の日が多く、九州地方では大きな災害に襲われました。近所の公園では、これからは百日紅の花が咲きます。最近、毎朝散歩するとき野イチゴ、ブルーベリー、ブラックベリーのような、ジャムにして食べられる木の実に興味が出まして、それを採って集めては、ジャムにして、少しずつ食べることもやっております。

今回は佐生健光さんの『キリスト教と称名』の第5回です。

「親鸞の2種廻向」という項目に次のように書かれています。

「親鸞は、「二種廻向」ということを強調されたと聞く。まず、現世で称名により浄土に往き、その後現世に還り、この世の人の救いの為に力を尽くす、という原理である。

このことについて、私は先に述べた先輩・山田氏が、次のように言うておられたのを思い出す。「今の私には、多くの人を救う力はない。しかし、命終え浄土に往って莫大な力を得た後、私は地上にもどり、人々の為に力をつくしたいと思う。だから、浄土に往ったあと、私はますます忙しくなるだろう」と。このことを聞いた時、それは仏教とキリスト教の違いの一つとして、さほど重要な事とは考えなかったが、山田氏の言葉は、私の脳裏に何時までも残り、何時までも反芻する原理となっていた。」

小西先生が、生前、私の伝道は天国において開始される、と話され、昇天されて40年もたつのに、録音テープや本の形で、伝道が続けられておられるのは、この「二種廻向」という姿でもあったのか、と納得がゆきました。

それから、「私の伝道は、天国において開始される」という項目では、「先生が鎌倉の病院に入院しておられたころ（注 昭和28年9月-29年11月）、病床にお見舞いに上がったことがあった。ご気分もよろしかったのか、帰り道を送ってくださったが、その時、鎌倉大仏をバックに先生の写真を取らせていただいた。先生は「私の後ろには、つねに主がおられる」と、その写真を気に入っていただけたようである」と書かれています。その写真は持っていたと思い、探しましたところ、すぐ出てきました。スキャンして、編集して、印画紙に焼き付けたものを、次のページにコピーして掲載します。鎌倉大仏の写真のように、小西先生には、主が、後ろにおられて、支えて下さるわけだ、なるほどと分かりました。

『小西芳之助の生涯』の校正が順調に進んでおまして、8月中には出来上がり、お送りすることができると思います。もう8年前に出版した『南原繁の生涯』と姉妹篇の図書のため、執筆・編集しましたが、尊敬する二人の先生に偶然なきっかけで出会い、伝記を発行することができ、幸せであると思えました。

新型コロナの毎日の感染者数が、ずいぶん多くなりました。皆様も、新型コロナに感染されないように、マスク、手洗い、うがいなどを励行されまして、お元気で、毎日お過ごしくださいますように。

7月23日

山口周三

エンカウンターの読者各位